

編集後記

ここに富山大学杉谷キャンパス研究活動一覧第38輯を刊行することができました。改めて発刊までの各講座の担当者、編集委員の先生方、図書館事務の方々など関係各位のご協力に改めて謝意を表します。

以前、中川先生の記載しておりましたが「輯」の字には各人が見たり、使用する機会は少ないかと思われます。私どもの病理学分野では古くから身近な存在の字でもあります。それというのも、各大学あるいは各医療機関で病理解剖を施行したほぼ全例について、毎年、報告することになっており、それらを集約した「剖検輯報」が刊行されます。本報告は所謂、全国を対照したデータベースでもあり、他の国では例を見ない、我が国独自の主要な死因究明に繋がる貴重な資料でもあります。それに匹敵するように、本研究活動一覧第38輯も杉谷キャンパスにおける昨年度の研究活動を集約したものです。本輯は各講座の活動状況のみならず、従事する各研究者の一年間の総まとめでもあり、それらの情報を共有することで、杉谷キャンパスの各位個人だけでなく、部門としても尚一層の飛躍を成し遂げることができる貴重な資料でもあります。校正が済んだ原稿を拝見しても、一つ一つに各研究者における業績の完成までに費やされた努力の賜や各人の意気込みが伺い知ることができます。改めて、実際の重さ以上に、その紙面に集約されている内容の“重さ”に深く感銘する次第です。また、本輯をご覧頂いた各研究者に申し上げたい。各位の昨年度の業績を振り返り、そして、他の研究者の活動をご覧頂き、尚一層、各研究者が研究活動へのモチベーションアップに繋がるよう、日々、機会がある度に本輯をご覧頂くことができましたら、これ以上のことはありませんし、編集者の一員として纏めた甲斐があるかと思っております。

本年も紙媒体での完成形となりました。ここ数年、電子化への移行と五福キャンパスとの連携を図ってきました、残念ながらそれらを果たすことができませんでした。反省するだけでなく、来年以降もそれらを成し遂げるよう努力していかなければならないと心に刻む次第です。

最後に、編集から校正、そして発刊作業まで繁雑な作業に労をおとり頂いた、白木公康先生、黒田敏先生、笹野一洋先生（医学部）、櫻井宏明先生（薬学部）、小泉桂一先生（和漢研）、そして川田優子様ならびに市吉郁代様をはじめとした医薬学図書館スタッフの方々の御尽力に深く御礼申し上げます。

編集委員長 井村 穰二